

文化情報誌



SUMMER  
No.87

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」  
という期待が込められています。

## さすらいの似顔絵師

今日も 明日も  
本気で  
描いてます



KOHEI MASUGI



## イラスト&ガラスのらくがき作家 一寸木 幸平(ますぎこうへい)さん

ひととの接し方や話し方、距離感の保ち方がよくわからない。気を許して、素の自分で接すると、引かれるし。距離感を気にしながら接すると、知らず知らずのうちに、とても大きな壁をつくっていたり、冷たい奴だとか思われたりする。

だから自分の気持ちを直接、誰かに伝えることは苦手。相手の反応を気にしすぎて、必要以上に言葉を装飾したり、必要な言葉を省きすぎたりしてしまう。

ボクが描き出す「絵と詞(ことば)」はそんなボクを助けてくれる。ボクが思っていることを端的に表し、「想い」として誰かに届けてくれる。それを見た誰かも、「絵と詞(ことば)」なら素直に受け入れてくれる。

ふと思い立ったときにノートに書き出し、ボクの本当に素直な気持ちとして書き出され、描き出された、この「絵と詞(ことば)」の作品のことを「絵詞(えことば)」と呼んでいる。

常に「無力感」との闘いだ。この歳になっても父からは「もっとちゃんとしろ」とか「稼ぎがないくせに」とか説教されてばかりで、なにひとつ褒められたりはしないし。と、ある人には「周りのひとが凄いだけで、君自身は口では大きなこと言ってるけど、実際はたいしたことしてないだろ」って言われてしまうし。

そう言われてみれば、誰もがわかりやすいような受賞歴もなければ、自分がやったことを声を大にしてアピールしたりしないし、世間的な地位も名誉も何も持っていない。ボクはただ、自分の進みたい道を歩いているだけの単なる「野良猫」だ。

「日本に元気を」とか「地域のために」とか「誰かのために」とか、そういうことをしている人たちから見れば、地元でくすぶっているだけのちっぽけな人間だ。



それでも、ボクの作品を好きでいてくれるひとが居る。ボクの作品で笑顔になったり、泣いたり、素直な気持ちになったり、勇気を持てたり。ボクが描き出す、何かを認めてくれるひとが居る。そういうひとが一人でもいる限りボクは描き続けていくんだろうな、と思う。

1月までパスポートすら持っていたいなかった井の中の蛙のボクは、日本を飛び出せば、世界に行けば、何か変わると思っていた。自分の何かが変わって、大きなパワーが生まれると思っていた。だから約一ヶ月、バルセロナとローマを放浪してみた。でも、言葉がわからないだけで特に何も変わらなかった。日本にいても、海外にいても、ボクはボク。どこにいても、変わることなく。ボクはボクだった。これからも、ずっと。ボクはボクであり続ける。ダメな自分。弱い自分。自分がやると決めたことを強く想い続ける自分。誰かが感じてくれている素晴らしい自分。そんな自分を素直に受け止め、受け入れて。これからも自分の道を歩いていこうと思う。



### プロフィール

#### 「さすらいの似顔絵師」

一寸木 幸平(ますぎこうへい)さん

平塚市出身。東京造形大学デザイン学科視覚伝達専攻卒。2002年「ぜったいスタジアムで観る!ワールドカップ観戦ガイド」で表紙、中面挿絵を担当しイラストレーターとしてデビュー。以降、スポーツ雑誌を中心に独自のイラストや似顔絵で各雑誌面を賑やかす。2007年、とんぼ玉・ガラスアート制作開始。

現在、平塚の海近くの工房&アトリエ兼ショップにて黙々と作品制作に励んでいる。

ウェブサイト <http://sky.geocities.jp/sasurainonigaoes/>



愛犬

Jajamaru

(ボメラニアン)

海友達

ケンセイ

と

### 今後の予定

2013年10月29日～11月3日まで横浜元町「ギャラリー元町」にて3度目の個展を開催。



# 育てる想いが 大きな力

平塚市 在住 ワン・サムウンさん

「東日本大震災の後、このまま日本に住み続けるか悩みました。」インドシナ難民だったワン・サムウンさんは、約35年前、カンボジアからタイの難民キャンプを経て日本へやってきました。当時、渡航先の候補は日本の他にアメリカ、フランスなどいくつかあり、ワンさんの親族は実際にこれらの国で暮らしています。「地震がまた起こるかもしれないという不安もあるし、親族のいるどこか別の国へ行こうかと考えた。でも、被災しながらも助け合う日本人の様子を見ていて、この国はすばらしいところだと改めてわかった。今は日本に住み続ける覚悟。」

ほとんど無一文で来日してからの35年間を振り返り、



「そりゃあ大変だった。でももう昔のこと。今は大丈夫。」とほほ笑むワンさん。「日本語ができるようになるまでとても苦労したけど、とにかくあいさつだけはできないといけないと思った。あいさつこそ心をこめられるコミュニケーションだから。」

日本で困っている同郷の人や母国カンボジアで助けを必要としている人に対し、ワンさんが心がけていることがあります。それは、一時的、物質的な支援ではなく人を育てるような活動を行うことです。「本当に助けたかったらその人が自立できないと。技術を身に付けてもらうとか、そういう環境をつくってあげないといけない。一回で終わったらダメ。例えば日本語は、外国人にとってとても難しい。一番難しいことばかもしれない。何年もかかるないと覚えられない。でもことばができると命に関わるくらい困ることもあるでしょう。」ワンさんは平塚でカンボジア語の通訳、翻訳活動にも携わってきました。「通訳翻訳ソフトがいくら発達しても、人が介する通訳にはかなわないよ。ことばは心のこもったものだから。」

奥様と2人のお嬢さん、そしてお孫さんもいるというワンさん。今の生活についてたずねると、「おかげさまで」と美しい日本語を選びました。このことばには、ワンさんのいろんな想いがつまっています。

## 第61回平塚市文化祭を開催します

開催日、内容等は下記のとおりです。

文化と芸術の秋を楽しんではいかがですか！

第61回平塚市文化祭 平成25年10月6日(日)～11月3日(日)祝

### ◆展示発表

開催日	内容	開催場所
10月10日(木)～13日(日)	華道展	中央公民館
10月16日(水)～19日(土)	書道、工芸	美術館
10月22日(火)～27日(日)	写真、絵画・彫刻	



### ◆舞台発表

開催日	内容	開催場所
10月12日(土)	フラダンス	中央公民館
10月13日(日)	剣詩舞道・吟詠	
10月19日(土)	日本舞踊	
10月20日(日)	三曲、長唄	
10月20日(日)	奇術	

開催日	内容	開催場所
10月26日(土)	音楽	中央公民館
10月27日(日)	洋舞	
10月27日(日)	謡曲、琵琶	
11月3日(日)祝	民舞、民謡	

### ◆文芸大会等

開催日	内容	開催場所
10月6日(日)	ビデオ映画発表会	美術館
10月20日(日)	短歌大会	中央公民館
10月26日(土)	俳句大会	

開催日	内容	開催場所
11月3日(日)祝	茶会	中央公民館
	川柳大会	誌上大会

平塚市文化祭(公募展)の作品を募集します！

- 応募資格 15歳以上（但し、中学生は除く） ●応募部門 書道、工芸、写真、絵画・彫刻
- 参加料 1人 1,000円
- 撤入・受付日 【書道部門】10月14日(月)祝 10時～11時  
【工芸部門】10月14日(月)祝 10時～11時  
【写真部門】10月20日(日) 11時～12時30分  
【絵画・彫刻部門】10月20日(日) 9時30分～11時
- その他 応募要項は公民館等に置いてあります。
- お問い合わせ 社会教育課 社会教育担当 (0463-35-8123)

## 第18回湘南ひらつか囲碁まつり

日本最大級

1000面打ち大会が  
開催されます

木谷門下生や日本棋院所属のプロ棋士約80名を招待し、囲碁まつりを開催します。

1000面打ち指導囲碁大会を中心に、トッププロによる囲碁教室・囲碁入門教室・サイン会など、囲碁ファンだけでなくどなたでも楽しめるイベントです。



是非ご来場ください。参加者も募集していますので、下記へお問い合わせください。

日 時 10月13日(日) 13:00～16:45

会 場 平塚市紅谷パールロード商店街

(雨天時は会場に設置する特設テント内)

お問い合わせ (公財)平塚市まちづくり財団 囲碁まつり係  
TEL. 0463-32-2237

# 『史跡の風景』 第6回

## 湾岸随一の眺望点～湘南平～



湘南平から平塚市街地と東相模を望む

平塚市の南西部、大磯丘陵の一角にある湘南平は相模湾沿のほぼ中央にあって、湾を一望できる景勝地です。平塚八景のひとつに数えられ、神奈川の景勝50選にも選ばれています。山の名は「泡垂山（あわたらやま）」、平坦な頂上部はかつて「千畳敷」と呼ばれていました。

泡垂山の名は、今から820年前の鎌倉時代の事件、曾我十郎祐成と五郎時致の兄弟による仇討ちにまつわる伝説に由来します。鎌倉幕府の記録を記した「吾妻鏡」が伝えるのは兄弟が工藤祐経を討取った事件の顛末だけですが、「曾我物語」には仇討ちを遂げるまでの兄弟の苦労が描かれています。

ある時、大磯の遊女虎御前の元にいた兄十郎が虎御前を巡って幕府の重臣和田義盛と小競合いになってしまいます。胸騒ぎを覚えた弟の五郎は、兄を助けるべく曾我の里から馬で駆けつけます。義盛の息子義秀の機転によってこの場の危険は回避されるのですが、物語に描かれるこの話に地元ではもう一つの逸話が付け加えられます。一刻も早く兄のもとへ急ぐ五郎は最短距離の山道を駆け上り、山頂で馬が口から泡を垂らしたという言い伝えです。そしてその時に馬の足元から湧き出した泉が「硯水」というわけです。

伝説の真偽はわかりませんが、物語は曾我兄弟が大磯に通うのは虎御前ためだけではなく、仇と狙う工藤祐経の動静と仇討ちの機会を探るためとしています。花水川の西岸にあって丘陵が海に迫る大磯は、東西交通のまさに急所。



平坦な頂上部

弟が工藤祐経を討取った事件の顛末だけですが、「曾我物語」には仇討ちを遂げるまでの兄弟の苦労が描かれています。

ある時、大磯の遊女虎御前の元にいた兄十郎が虎御前を巡って幕府の重臣和田義盛と小競合いになってしまいます。胸騒ぎを覚えた弟の五郎は、兄を助けるべく曾我の里から馬で駆けつけます。義盛の息子義秀の機転によってこの場の危険は回避されるのですが、物語に描かれるこの話に地元ではもう一つの逸話が付け加えられます。一刻も早く兄のもとへ急ぐ五郎は最短距離の山道を駆け上り、山頂で馬が口から泡を垂らしたという言い伝えです。そしてその時に馬の足元から湧き出した泉が「硯水」というわけです。



曾我十郎の硯水

当時幕府があった鎌倉と東海地方とを行き交う人や物資、そして情報の多くが大磯を通っていたのです。こうした交通路を眼下に見下ろす湘南平から高麗山にかけての尾根筋は、軍事的にも重要な眺望点となります。後の戦国時代に、相模国の攻略を目指す北条早雲は高麗山で挙兵、上杉謙信や武田信玄も小田原城攻撃の際には周辺に陣を敷いています。



高角砲の台座

時は流れ、第二次世界大戦が開戦した昭和16年（1941）頃から、火薬廠を囲むように防空砲台が作られます。湘南平も「千畳敷山防空砲台」として整備されました。現在電波塔の西、古い展望台の北側に残されている円形のコンクリートは、当時8cm高角砲を据え付けてあった台座なのです。

昭和34年（1959）に公園として整備された千畳敷は「湘南平」と名付けられ、四季折々の観光スポットとして人気を集めていますが、そこはまた過去と現在の眺望が交差する史跡でもあるのです。

（平塚市博物館学芸員）



西方、足柄峠を望む

### 平塚市文化振興基金にご協力を!!

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されます。基金に御寄附くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。御支援をよろしくお願ひいたします。  
(電話 0463-32-2235)

平塚市文化振興基金に御寄附をいただいた方  
H25.2月から7月（敬称略）  
■湘南ステーションビル株（H25.7.29）

友好都市提携記念特別展伊豆市コレクションによる

平塚市美術館 天才たちの若き日  
横山大觀から速水御舟まで

10月12日(土)～11月24日(日)

平塚市と伊豆市の友好都市提携を記念して、伊豆市所蔵の日本画作品約70点をご紹介します。明治大正期に、修善寺温泉の旅館の主人が、横山大觀・今村紫紅・安田靄彦・速水御舟らを支援し、収集した作品です。のちに大成する画家たちが、若き日に描いた魅力的な作品をご覧ください。 平塚市美術館 0463-35-2111



横山大觀『柳陰清談』一九一〇年頃

発行 平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成25年(2013年)8月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm>

再生紙を使用しています